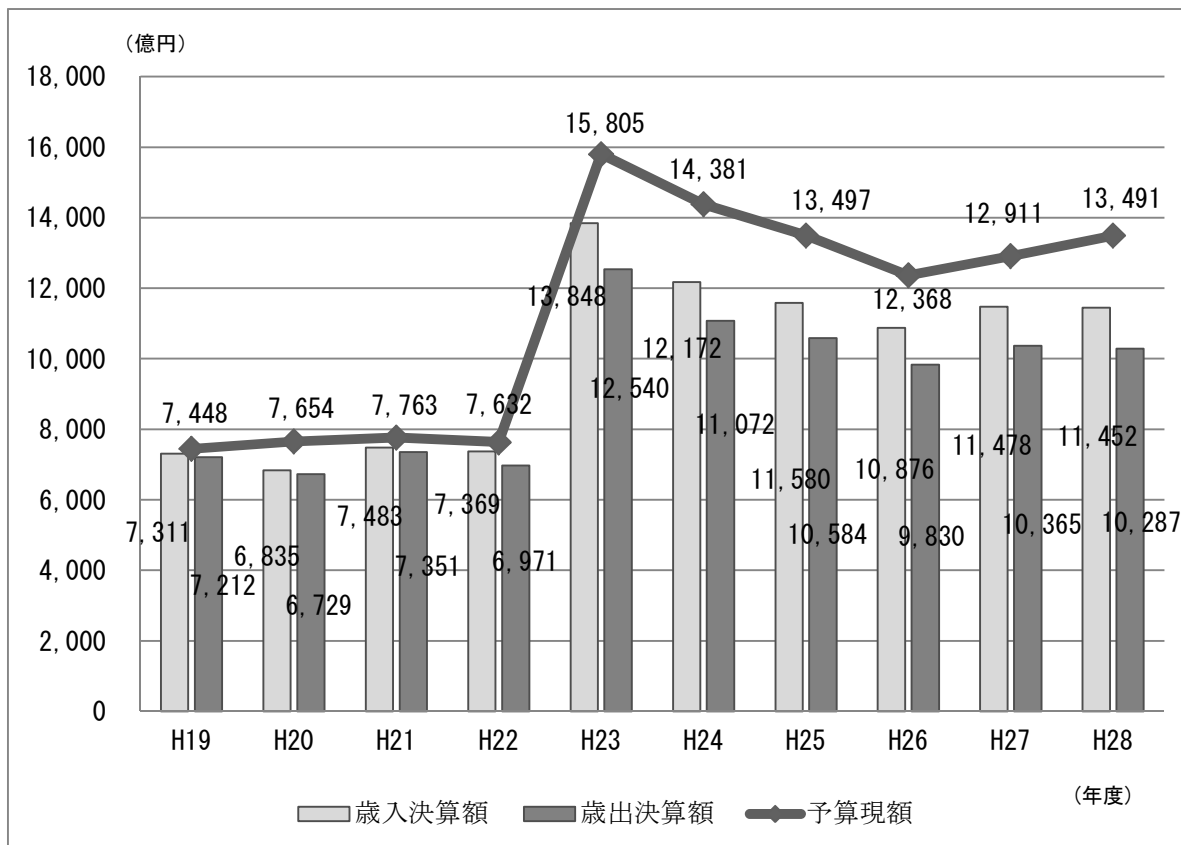


平成 28 年度一般会計歳入歳出決算の概況

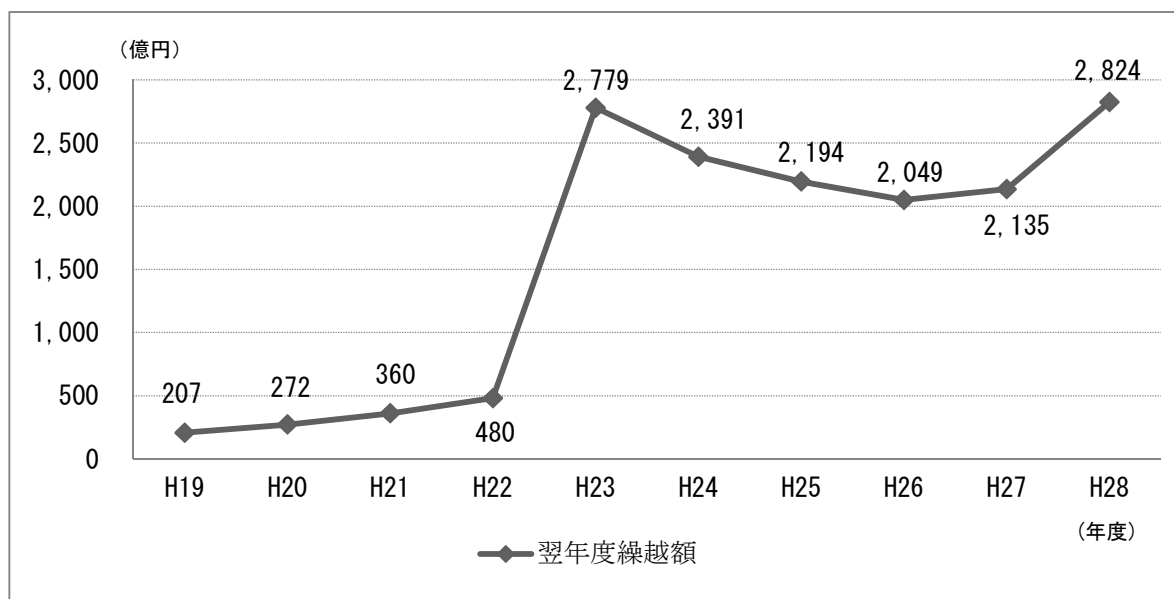
1 予算現額及び歳入・歳出決算額の推移

歳入・歳出決算額は、復旧復興事業の進捗に伴い、国の交付金で造成した各種基金からの繰入金が増加したことなどから前年度を下回った。



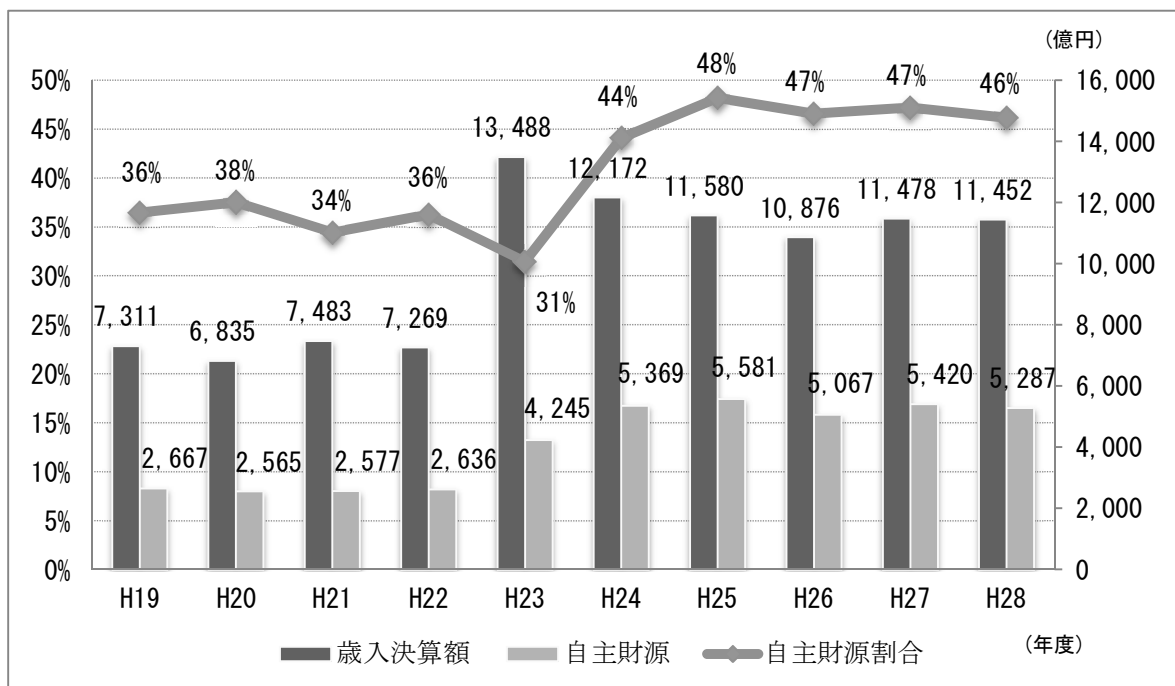
2 翌年度繰越額の推移

翌年度繰越額は、台風第 10 号の影響などから、平成 23 年度から 6 年連続で 2 千億円台となった。



3 自主財源割合の推移

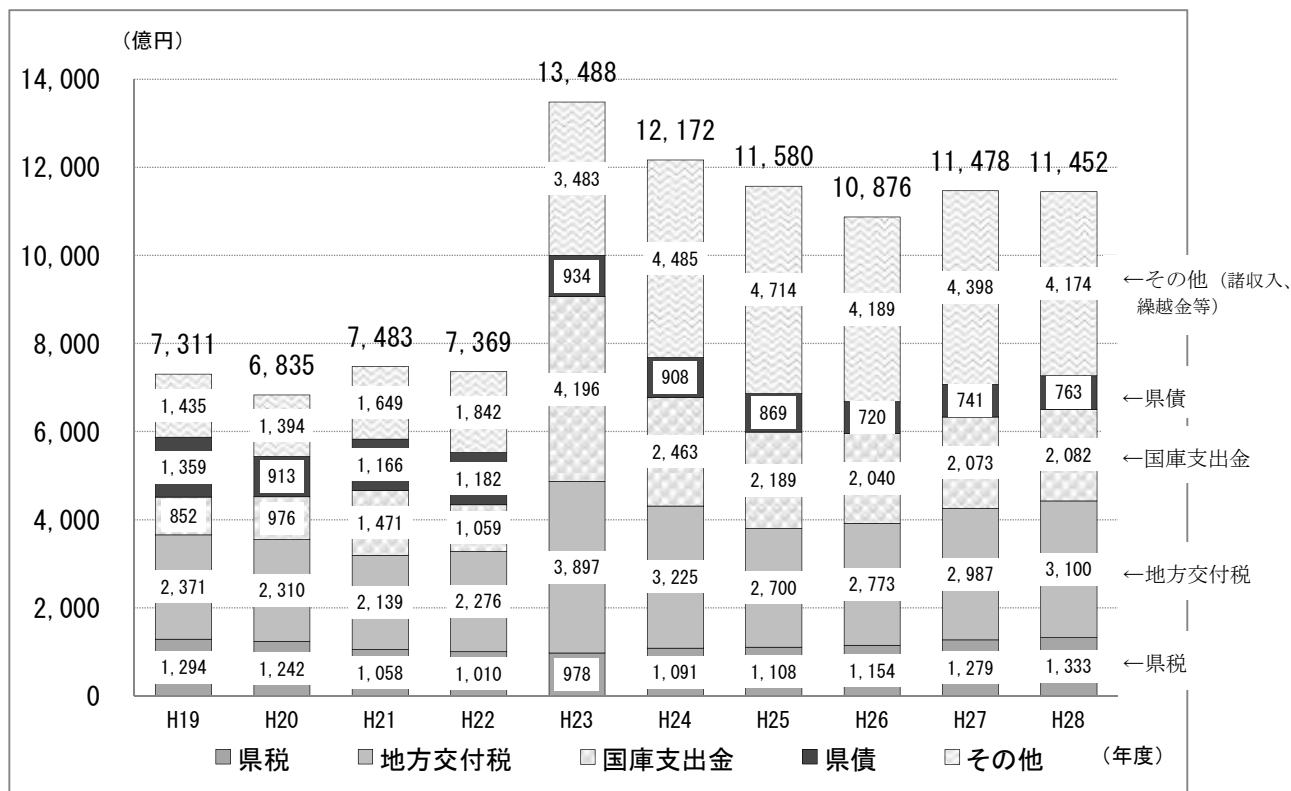
自主財源は、基金繰入金の減少による繰入金の減などにより減少したが、繰越金や県税収入などが増加したことにより、5年連続で40%台となっている。



※自主財源：県税、地方消費税清算金、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入

4 歳入決算の状況

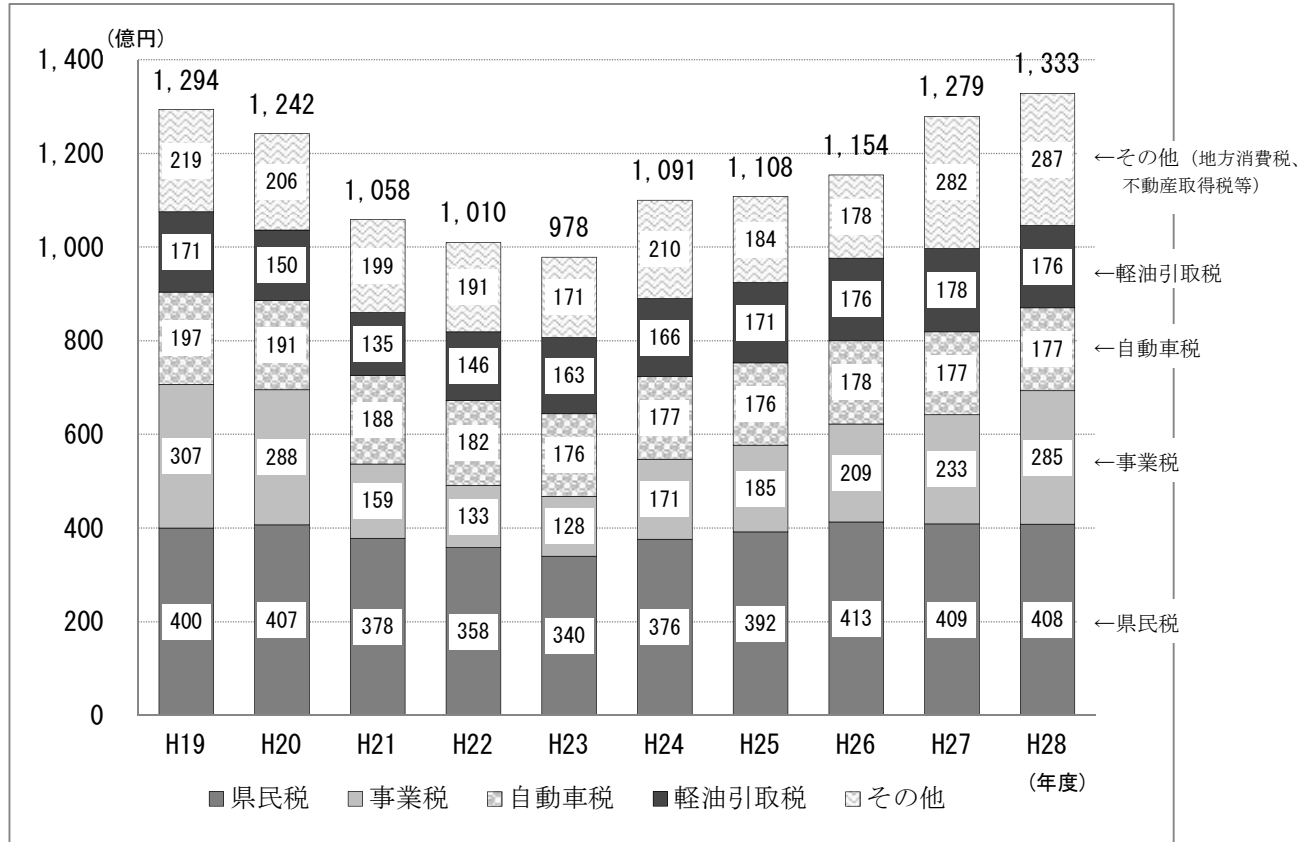
歳入決算額は、東日本大震災復興交付金基金や緊急雇用創出事業臨時特例基金などの基金繰入金の減少による繰入金の減などにより減少した。



【歳入のうち県税と県債の状況】

(1) 県税

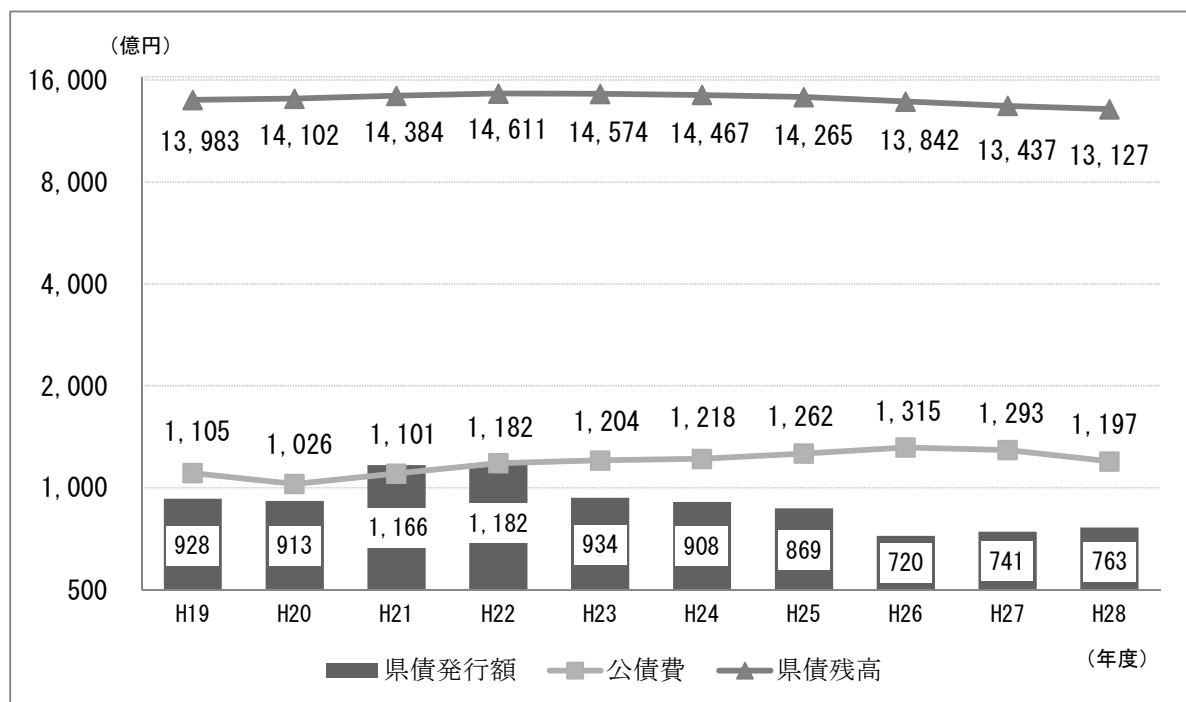
県税収入は、事業税、地方消費税などの増により、5年連続で増加した。



※事業税：法人事業税、個人事業税

(2) 県債

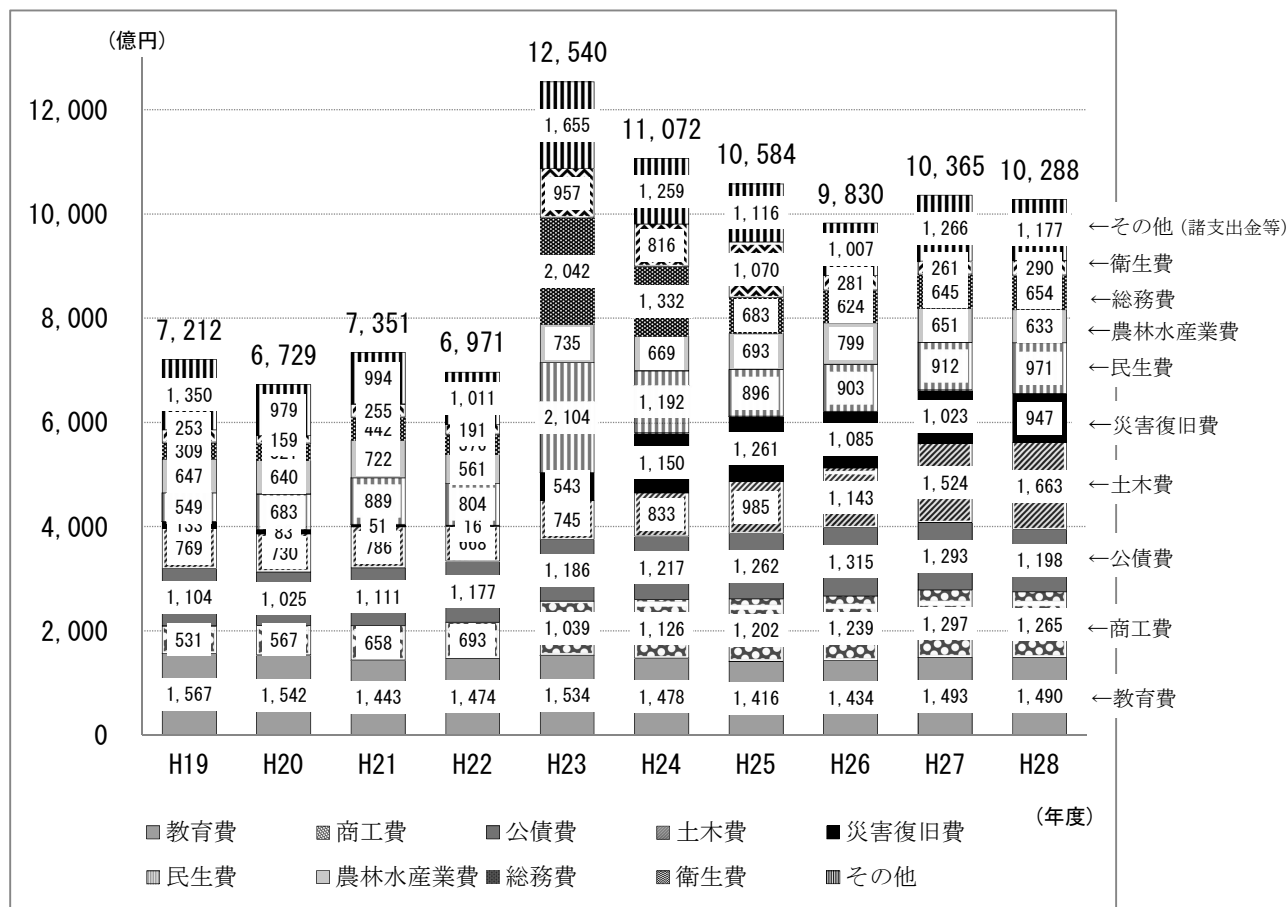
県債残高は、平成22年度をピークに減少している。



5 歳出決算の状況

(1) 目的別

目的別分類では、県債償還元金及び利子の減少に伴う公債費の減、事業復興型雇用創出事業費補助などの減少に伴う労働費の減、河川等災害復旧事業費などの減少に伴う災害復旧費の減などにより減少した。



(2) 性質別

性質別分類では、公債費の減により義務的経費が、補助費等の減によりその他の経費がそれぞれ減少し、普通建設事業費の増により投資的経費が増加した。

